

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1215 号	氏名	Mohammad Tanvir Sarwar
学位審査委員	主 査	筑波 隆幸	
	副 査	伊藤 公成	
	副 査	吉村 篤利	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 本研究は、歯周病菌 <i>Prevotella intermedia</i> が発現する新規のペプチダーゼを同定し、その生化学的性状を明らかにしたものであり、その研究目的は妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 <i>Pre. intermedia</i> が発現するペプチダーゼ活性を種々の蛍光標識合成ペプチド基質で検討し、Arg-4-methylcoumaryl-7-amide (MCA) 分解活性が優位であることを見いだした。その酵素学的な性質から、Arg-MCA はアルギニン特異的システインペプチダーゼにより分解されていると推定した。それらの結果と <i>Pre. intermedia</i> の全ゲノム情報より、2つの候補遺伝子を抽出し、遺伝子単離と組換え分子発現を行った。これらの研究手法も妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 大腸菌発現法と酵素化学的な研究法を用いて、担当遺伝子を同定し、該当酵素の詳細な性状を検討した。その結果、当初アミノペプチダーゼと推定した本酵素が、アルギニンに特異性の高いジペプチダーゼであることが判明した。本酵素は C69.001 サブファミリーに属し、<i>Lactobacillus helveticus</i> ジペプチダーゼ A がその基準酵素であるが、本研究の結果から、その基質特異性には訂正の必要があることが判明した。その酵素活性を獲得するプロセッシング機構もきわめてユニークであった。これらは歯周病菌関連ペプチダーゼの研究において重要な発見である。</p>			
<p>以上のように本論文は歯周病の生化学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			